第24回参議院選挙に求めること - 財政再建を最大の争点に -

はじめに

- 第 24 回参議院選挙は、選挙権年齢が 70 年ぶりに引き下げられた初めての国政選挙で、これまで政治的意思決定の外に置かれていた 18 歳、19 歳の若年層約 240 万人が有権者に加わる。 一人でも多くの若者に投票所へ足を運んでほしい。
- 公示を明後日に控え、争点として経済政策(アベノミクス)、憲法改正、安全保障法制など が掲げられているが、私は次の通り「財政再建」 を最大の争点に据えるべきと考える。

「財政再建」を最大の争点に — 与野党は具体的な道筋を示すべき —

- 成熟した民主主義国家の中でGDPの2倍を超える債務を抱え、歳入の3分の1を借金に依存している国は、日本以外にはない。わが国の財政は危機的な状況にあり、将来世代に負担を先送りにすることで成り立っている。
- 企業であれば、設備投資などで融資を受ける際には経営者と従業員が何度も議論を重ね、 必ず詳細な返済計画を策定して金融機関のチェックを受ける。合理化できる支出があればでき る限り削減する。
- 国が巨額の債務を累積させてしまったのは、チェック機能が正常に作動してこなかったからである。政治は国民に痛みを伴う課題を選挙の争点から巧みに遠ざけ、政治をチェックすべき国民は家計だけを見つめてきた。
- "増税してよいか"と問われれば、ほとんどの国民は"否"と答える。しかし、この先も 国民が財政危機から目をそむけ、政治が国民に負担増への合意形成を図る責務を放棄し続けれ ば、私はわが国の財政がやがて破綻するのは避けられないと考える(日本商工会議所の三村明夫会頭 は「2019 年 10 月に消費増税を再び見送ればおそらく日本は財政的に破綻する」との考えを表明している/6 月 2 日付・日本経済新聞ほか)。現在、わが国の国債が信認を保っていられるのは、消費税率が段階的に 引き上げられる余地を残していると市場が判断しているからである。しかし、政治がそれを実 行できないとすれば国債の信用は失墜し、わが国は財政破綻への道を歩むことになる。
- 参院選を前に、与野党を挙げて消費増税の再延期を主張したが、増税分は社会保障の充実に加え、債務削減にも充当されるはずだった。再延期を主張するならば、国と地方の基礎的財政収支(プライマリーバランス)を2020年度までに黒字化する目標をどう達成していくのか、与野党は財政再建への具体的な道筋を参院選で有権者に示す責任がある。

- 確かに再延期は個人消費を後押しする効果があるが、極めて限定的であると判断している。 私は、国民に説得力ある再建計画が示されなければ、企業の内部留保が昨年度末に過去最高を 更新したのと同じように、たとえ家計収入が増えたとしても貯蓄に回るだけであると考える。 財政再建への道筋を示すことなしに真のデフレ脱却はない。参院選では財政再建を最大の争点 とすべきである。
- 財政再建の大きな課題は、毎年1兆円ずつ増え続けるとされている社会保障費である。最近の世論調査(共同通信社)によると、社会保障は新たに有権者となる若い世代が最も関心を寄せる分野となっている。2012年の民主党政権時に3党合意した「社会保障と税の一体改革」は、将来世代に負担を先送りしないために生まれた政策であるが、2度にわたる延期で空洞化したかに見える。増税再延期による社会保障充実策の財源をめぐる議論も重要だが、今後も消費税の増税分を社会保障の充実や債務削減に充てる改革の理念を守っていくのかどうか、3党は今後の基本的な考え方を国民、特に若い有権者に明示してほしい。

結 び

- 財政再建は現在、争点として浮上していない。しかし、財政再建の道筋を描き国民に示すのは、委縮している個人や企業のマインドを回復させる一つの経済政策である。各党は財政再建を最大の争点として位置づけ、論戦を戦わせてほしい。
- 負担を先送りにされている若い世代の有権者は、財政再建の成否が将来の生活に大きな影響を及ぼすことを認識し、現在のわが国の財政状況や世代間の税負担の違いなどを積極的に学習してほしい。政党においては、若い有権者が政治へのチェック機能を十分に発揮できるよう説明責任をしっかりと果たすべきである。
- 現在の政治が抱えている大きな問題点として、いわゆる「シルバー民主主義」(少子高齢化で有権者に占める高齢者の割合が増加し、高齢者向けの施策が優先される政治)がある。財政再建は実際には生まれたばかりの子どもから高齢者に至るまでの複数の世代が当事者となる課題である。その課題に意思決定を下せる世代の範囲が僅かであるにせよ広がった第24回参議院選挙が、若い世代と高齢世代の立場の違いを浮きぼりにしながらも着地点を見出し、財政再建を軌道に乗せる足がかりとなるのを期待している。

以上